

人間科学研究所所長挨拶

港道 隆

研究所所長の港道と申します。変な名前ですので、たまたま研究所のホームページを見ましたら、所長の挨拶のところが「港道隆」となっていました。請け負った業者の方が、こんな名前はないだろうと無理やりずらしたようです。

それはいいとして、人間科学研究所は、文部科学省の私立大学戦略的研究基盤形成支援事業という、一度聞いただけでは理解が難しい助成事業の対象になっています。「暴力を介した加害・被害の関係」、それから今日問題になります「子育てを巡る諸問題」、「芸術と芸術療法の対話」、最後に、「心理療法の現状を検証しよう」という四つのテーマで研究が同時進行で進んでいます。それぞれのテーマについて、いろいろな専門家に関わっていただきまして、学際的というのですが、ある専門領域に閉じこもらない広い議論をしていきたいというのがわれわれの願いです。

現在は助成期間五年の三年目にありまして、来年からこの研

究成果を四冊の叢書という形で世に問う準備期間にあります。そこで今日、第二系列のテーマ、子育てを巡る諸問題を巡って、多彩な研究者をお招きして、シンポジウムの形でわれわれの成果の一端を公開しようという運びになりました。

ご存じのように先月、育児・介護休業法が改正されて、幾分か育児休暇も取りやすくなったのかなと思いますけれど、同時に発表された二〇〇九年の育児休暇取得率の統計では、女性が八五・六％で、これは五％減っています。男性が〇・四九％上がっています、状況が少し改善されたのかなと思うと、実は全体の労働者の一・七二％に過ぎない。したがって日本では、まだまだ男性の育児休暇取得は難しいのが実情であります。

今日は子育てを巡ってさまざまな問題提起と改善案が提案されることと思いますので、最後までお付き合いいただいで、われわれと一緒に問題を考えていただければありがたいと思います。